

創立者 江角ヤスの生き方に学ぶ ～学生による江角ヤス新聞作成からの一考察～

山口 明美

要旨

大学で学ぶ若者が生きる現代は、江角ヤスが生きた時代とは異なり、物質的には比較的恵まれた環境に育ち、希望すれば大学進学は可能であるが故に学んでいることの価値を見いだせていない現状でもある。

本研究は、そのような学生が江角ヤスと出会うことの意味を探ることを目的とし、純心講座の学びの意義を明らかにするものである。方法として江角ヤスの調査・研究結果を新聞の形でまとめる形をとった。江角ヤスをより身近な存在として受け止めつつ、深い、素晴らしい、すごいなど感嘆と尊敬の念を抱いている。また、自分たちにはない江角ヤスの力強さ、優しさの原点は「マリア様、いやなことは私がよろこんで」にあることを確認していることが分かった。その結果、学生の生きる指針、具体的な行動の目標ともなっていると言える。

キーワード：江角ヤス、純心講座、新聞作成、生き方、学び

I. 研究の目的

「創立者シスター江角を知る」というテーマで、この数年、1年前期に開講される純心講座において新聞作成を行う活動を展開してきた。純心講座の目的は、「建学の精神を学び、人として学生としていかに生きるかをともに考えることである。また、建学の精神に基づいて隣人や社会に貢献する人間の育成を目指すものである。」とし、具体的には「1. 建学の精神を理解するとともに日々の生活において実践し、その心を培うことができる。2. 創立者シスター江角ヤスの生き方を深める。3. グローバルなものを見方を通して視野を広げ、社会の動きに関心を持つことができる。」を目標と掲げている。建学の精神は江

角ヤスの生き方をことば化して表したものであることから、その理解を深める方法として江角ヤスの研究を行ない、まとめとして新聞作成という手法をとった。その結果から学生一人一人が新聞作成を通して創業者理解を深める機会ともなったと考える。学生はその研究を通して、創業者の教えを生きる力として具体的に生き始めている姿を目にすることも多い。しかし、これは教授者の思いであって学生の心に何が響き、着実に生きる力となっているのかは定かではない。

そこで、学生の研究内容である新聞、レポート等を分析し、学生の知見と学びを検証し、江角ヤスから何を学び取っているのかを考察し、学びの意義を明らかにするものである。

II. 研究方法

本研究では、現状を把握するために質的研究を行うこととし、2つの観点から考えていくものとする。

1) 作成された新聞の分析

新聞作成にあたり、新聞作成の目的、作成の手順、作成方法について全員のコンセンサスをとった上で開始した。

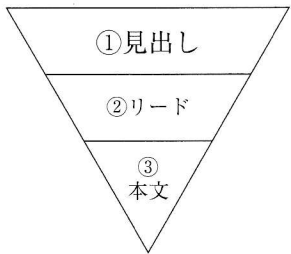
新聞作成の目的

創業者 江角ヤスの生き方を深く調査・研究し、他者に最も伝えたいことを「新聞形式」でわかりやすく伝える。

新聞作成の手順

- ①調査・研究を始める前に、情報収集にあたって情報カードを用いることとし、その情報カードの使い方について説明をする。
- ②新聞記事（ニュース）の基本的な紙面構成について学ぶ。先ず一番大事なことを短い言葉で伝え（「見出し」「リード文」）そして、そのあとに詳しい説明を付け加える。（「本文」）これは、読者に素早く情報を伝えるためであることを説明するとともに、この新聞記事の書き方でまとめることが、「新聞形式でまとめる」ということを理解する。

紙面構成についての説明は以下の通りである。¹⁾



①見出し

「この記事にこんな事が書いてあります」と知らせる文章です。記事の内容が一目でわかるように要約されています。新聞を詳しく読む時間がない時は、見出しに目を通すだけでも良いのです。

②リード

「見出し」と「本文」の間に書かれている文章です。

これだけ読めば記事の全体が分かるように、要約して書かれています。

ただし、小さい記事ではすぐに本文となり、リードはありません。

この場合、第一段落が記事の要約となっています。

③本文

ここを読むと、事件や事実の詳細を知ることができます。

③割り付け（レイアウト）の説明をし、読み手が記事を読むときに、迷わない割り付けをし、見出し、トップ記事、セカンド記事、参考文献、編集後記を必ず入れるようにした。また、記事中の写真、図・表にはキャプションを入れることとした。

④実際に新聞記事を作成するにあたって、共通理解項目は次の通りである。

記事は5W1Hで

リード文または最初の段落には、5W1Hを含むのが良いとされています。ただし、どの記事にもすべての要素が必要とは限りません。

When=いつ(日・時・季節) Who=だれが(名前) Where=どこで(場所)
 What=何を(出来事や物) Why=なぜ(目的・疑問・理由) How=どのようにして(方法)

事実と意見を書き分ける

調べてわかった間違いのないこと(事実)と、自分なりに考えてたどりついた推測や判断(意見)を書き分ける。

「事実」の文末表現例→「～である。」「～だ。」

「意見」の文末表現例→「～だと思う」「～かもしれない」

自分の言葉で書く

資料の丸写しはしません。調べてわかったことを自分の言葉に書き換えましょう。

(1) 新聞作りの手順

- ①一番伝えたいことを決める。これがトップ記事となる。
- ②二番目に伝えたいことを決める。これがセカンド記事となる。
- ③割り付け（レイアウト）を決める。
- ④字数を数えて、下書きをする。
- ⑤新聞台紙を作成し、入力する。
- ⑥校正（言葉の使い方や誤字・脱字がないかの確認）する。

(2) 記事の書き方

トップ記事

創立者 江角ヤスを研究・調査して、本大学学生に最も伝えたいことを、江角ヤスの業績（事実）と考え（意見）を入れて書きます。

本文の書き方

- ・最初に決めた文字数で本文を書く。（写真・イラストを入れても良い）
- ・本文は先ず結論を書き、それから説明するように書く。
- ・誰が読んでもわかるように、簡単に正確に書く。

見出しの書き方

- ・見出しを決める。「〇〇について」は、一番ダメな見出し。工夫すること。
- ・見出しの言葉は、本文記事の内容が一目でわかるように短く書く。
- ・見出しはワクで囲もう。ワクはいろいろな飾りをつけてよい。

セカンド記事（2 番目の記事）

シスター江角にまつわる 2 番目に伝えたいことを記事にします。

参考文献

調べるために使った資料の著者名、書名、出版社名、出版年を書く。

Web ページを利用した場合は、HP のアドレスを記入する

基本的に資料としては、文献の方が信頼性は高い。

編集後記

最後に「感想」を書く

2) 新聞作成後の学生レポートから読み解く。

創立者江角ヤスの研究を通して、今後の人生の糧になると思われる点を3つあげ、今後の生き方にどのように生かしたいかを述べられたものを分析する。

Ⅲ. 結果と考察

1) 作成された新聞の分析結果

学生が作成した新聞の1つの例であるが、トップ記事、セカンド記事を掲載し、写真などにキャプションもつけられている。

文末に編集後記および参考文献を載せ条件に合ったものが作成されているが、その学生の作品例を図1に示す。

図1 学生制作の新聞例



新聞記事のトップ記事、セカンド記事に取り上げられていた主な項目は、過去5年間のデータの分類によると、表現はさまざまであったが、共通する内容をまとめると以下のように分類することができる。

トップ記事としては、江角ヤスの生い立ちと生涯貫いたもの。江角先生のことばに生きる原点を見る。江角先生のような出会い。女子教育への思い。原爆から復興への道と力。学園標語について。出会いからの生き方などの7項目に分けられた。

また、セカンド記事では純心学園の

教育と精神。原爆体験から学ぶ。江角先生のことば・性格から生き方を学ぶ。江角先生の保育観・教育観。学園標語。江角先生の人間的一面。江角先生の生い立ち（将来の夢）。福祉への思いの8項目が多く取り上げられていた。その項目の割合は図2・3に示す。

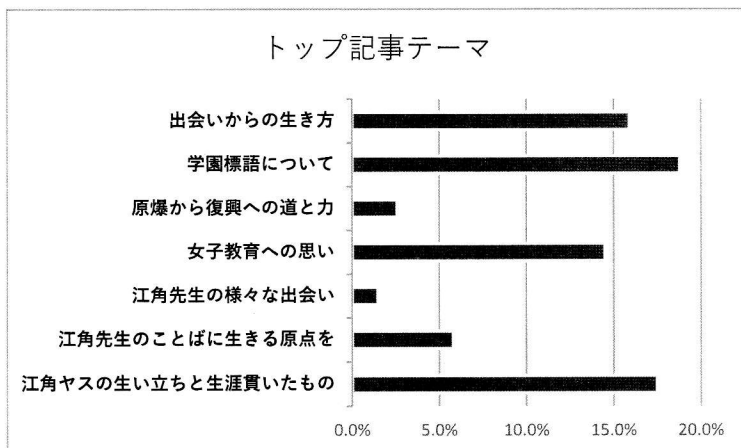


図2 トップ記事テーマ

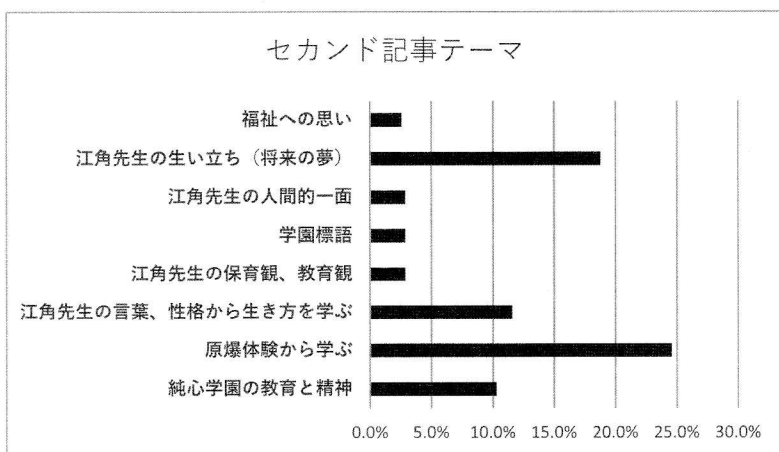


図3 セカンド記事テーマ

テーマから見えてくるのは、学生は江角ヤスの幼い時に形成された性格・生き方が教育者江角ヤスの原点として捉えているようである。その生き方が、生涯を通して連綿と流れ確固たるものが江角ヤスの生き方を貫いていると受け止めている。特に苦難の原爆体験から不死鳥のように復興する力の源は、神様への信頼はもちろんのこと、人間への思い、それを“優しさ”と表現している学生が多いが、他者のことを思いやる優しさとしている。その思いが現在の純心教育を形づくり、福祉への思いとして結実していると表現している。

トップ記事のテーマとして「出会いからの生き方」を取り上げている学生は多く見られたが、生涯を通して一つ一つの出会いから学びと感動を体得し、また、その出会いが原爆のような負であったとしても、そこから学びと行動を模索し立ち上がる江角ヤスの生き方は学生に強い感銘を与えているようだ。その結果、学園標語が今もなお息づいていると捉えているようである。

“苦しみのない人生はからっぽです。あとから思い返したら、苦しみはすべて善に変わっているのよ。だからすべてを感謝に変えて生きなさいね。”²⁾

語名詞	スコア	出現頻度	動詞	スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
先生	19.71		思う	0.59	3	深い	0.73	7
江角	44.10		できる	0.73	8	強い	0.18	6
ヤス	11.00	11	知る	2.19	8	すごい	0.11	6
思い	2.41	10	調べる	4.11	16	優しい	0.30	5
大切	1.44	10	いく	0.28	13	素晴らしい	0.21	4
生徒	2.32	8	感じる	0.59	10	苦しい	0.55	3
言葉	0.34	8	考える	0.21	9	よい	0.01	2
大学	0.51	7	学ぶ	1.66	9	つらい	0.05	2
女性	0.19	7	過ごす	0.95	6	広い	0.15	2
学園	2.58	7	なれる	0.16	4	大きい	0.04	2
生活	0.36	6	読む	0.05	4	若い	0.06	2
新聞	0.95	6	忘れる	0.08	4	辛い	0.01	1
周り	0.51	6	生ける	0.09	4	良い	0.00	1
マッチ	2.27	6	学べる	1.22	4	温かい	0.09	1
人生	0.17	5	作る	0.04	4	明るい	0.03	1
原爆	5.00	5	見習う	0.97	3	早い	0.00	1
様々	1.02	5	残す	0.23	3	いい	0.00	1
勉強	0.15	5	出会う	0.29	3	嬉しい	0.01	1
努力	0.52	5	言う	0.01	3	小さい	0.02	1

図 6 ことばの頻出数

努力したから天才になれたんだ。人のために誠意を尽くす江角先生はとても素晴らしい人。自分のことよりも他者の幸せを願う。出合いを大切にしながら自分の進むべき道を探し続ける。負けず嫌い精神を忘れず、自分のため、人のために努力をすることを絶やさない。つらい経験を乗り越えどんなに苦しい状況に置かれていても、周りの人を大切にする。」

以上のように江角ヤスに対するイメージとその人間性を学生は研究を通して構築しているようである。それが、分析した結果からも理解できる。

また、単語頻出数の形容詞を見ると、深い、強い、すごい、優しい、素晴らしい、つらい、広い、大きいという単語の頻出数が目立つ。これは、学生が江角ヤスの生き方を俯瞰してみた時の感動、驚きと捉えてよいのではないかと考える。

その結果、「他者の気持ちを考えることをこれから大切にしていきたい。今の自分に出来ることは何があるか考えたい。周りのことを考えて行動できるような人になりたい。周りの人の幸せを願い、温かく、明るくできるような人に少しでも近づけるように努力したい。純心教育を忘れず「神様にも人さまにも喜ばれる女性」として成長していきたい。人に少しでも優しく気を配ることができるようになりたいと思う。感謝し、誇りをもって大学生を送りたい。私も

みんなのために動ける人になりたい。進んで行動のできる江角ヤス先生のような女性になれるよう努めたい。ありのままの自分を大切にしよう。世の中に貢献できるような人材になりたい。小さい存在でも大きな役割をなし遂げられるのだと改めて感じた。心の広い女性になれるよう頑張りたい。江角先生の「自分に後悔のないよう、様々な事へと全力で挑戦し、努力をしていく」姿は私たち若者が目指していくべき姿だと思う。見習いたい。誇りとしたい。聖母マリア様の心に倣い、喜んでそれらを選ぶ愛の奉仕の実行者でありたい。学園標語である「マリア様、いやなことは私がよろこんで」をヤス先生の思いとともに心にとめ、これからの生活を送っていきたいと思う。」のような表現となっているのであろう。

江角ヤスの生き方は、自分たちとかけ離れ、到底近づけないものとしては捉えていない。自分の生き方の角度を変えて見直すことにより、私も一歩近づける存在であり、目標となり得る存在として受け止めている。それは江角ヤスの生き方そのものが、非常に具体的で日常生活に根付いたもので偉大な存在でありながら近い関係性を感じているのだろう。その生き方が学園標語「マリア様、いやなことは私がよろこんで」に集約されており、これを実行することにより実現できるという目標となっているのだろう。

2) 新聞作成後の学生レポートから読み解く。

新聞作成後にシスター江角の研究を通して今後の人生の糧となると思ったことを具体的に3つあげてもらった。5年間の学生のレポートを分析すると表現は異なるものの取り上げている項目が類似しているため、令和元年度入学学年の例を参考に考えることとし、人生の糧となると記されたものを次の表①に示す。

表①人生の糧となる江角ヤスの姿

人生の糧 ①	人生の糧 ②	人生の糧 ③
自分より他者を考える心が温かい	ありのままを大切にすること	出会いを大切にすること
学園標語を大切に生きている	自分の思いをしっかりと伝える	周りのことを良くみる観察力
ヤス先生の思考力、判断力、行動力の素晴らしさ	神を愛し、人を愛し、植物を愛される姿	多くの人に影響を与え続ける江角先生の存在そのもの
他人に対して温かな心で接しておられる	様々な人や出来事との出会いを大切にされる	つらい経験を乗り越える強さと優しさ
どんな時にも努力し、諦めない姿	他者に対する思い、優しさ、温かさ	学園標語を身をもって生きている姿
強くて諦めない心	学園標語を生きていく思いやる心	他人を思いやる心
目標を明確にし、努力を欠かさない	植物を愛する心	生徒を何よりも大切にすること
人を大切にすることの精神	学園標語を具体的に生きている姿	神様にも人にも喜ばれる女性そのもの
やるべきことを忠実に実行する姿	努力家	仕事をきちんと果たし、礼儀正しい
学園標語を生きている	植物を愛する心	勉強で努力を惜しまない人
努力を惜しまない勉強家	真理を追究する心と改宗する勇気	学校再建の決定を下す判断力
神と人に喜ばれる生き方を大切にされた	子どもを愛する教育者としての姿	他の人の中に良い面を見つける名人
なに事をも人を優先し、人のために働く	何事にも挑戦する	学園標語を身をもって生きている姿
学びたいものに対する意欲	力強く生きられる姿、苦難にも耐える	信じる人、信念の人
生徒を大切にできる教育者	様々な生き方を尊重する姿	学園標語を身をもって生きている姿
学園標語を生きている	第一に生徒のことを考えられる教育者	他の人の中に良い面を見つける名人
生徒を大切にできる教育者	嫌なことを積極的になさる姿	人、出来事との出会いを大切になさる姿
とても勉強熱心	強い信念を持っている	人のために尽くす姿
自分の意思を貫く強い信念をもっている	苦難を乗り越える強さ	学園標語を身をもって生きている姿
高い学習意欲	他人のことを一番に考える	純心マッチを生きている
挑戦する姿、意欲	自分のことより他人を優先する	学園標語を身をもって生きている姿
努力家でハンガリー精神がある	奉仕の心と行動が一致している	大変な仕事も喜んで引き受ける
他者が嫌がることも喜んで引き受ける	学園標語を生きている心、思いやる心	他の人の中に良い面を見つける名人
人や出来事との出会いを大切にすること	つらい経験からも学び取る	学園標語を身をもって生きている姿
真面目に生きている	細かいことへの気配り	他の人を第一に想う
自然を大切にすること	常に人のために思いながら生きている	強く生きる
どんな時にも生徒が第一として優先できる	気前よく、嫌なことを引き受ける	学園標語を身をもって生きている姿
良い点を見つける名人	様々な生き方を尊重する姿	ありのままの自分を大切にすること
高い学習意欲	学園標語を身をもって生きている	出会いを大切にすること
女子教育に命を懸けるすがた	感謝の心で過ごす	純心の女子教育を大切にされた
学園標語を生きている	悲しみやつらいことを乗り越える強さ	学びに向かう意欲
学園標語を身をもって生きている	何よりも生徒を優先する	自分より他者を大切にし、思いやる心
学生時代の向学心	向上心がある	高齢者に対しての優しさ
周囲に流されず、自分の意思を貫く強さ	苦難の中でも、先ず他者を優先する行動	純心マッチのように周りを明るく照らす
様々な生き方を尊重する姿	自然を愛し大切にすること	清らかで、神様にも人にも喜ばれる存在
学園標語を身をもって生きている	生徒を大切に育て、人を大切にできる	苦難の中にあっても立ち上がる強さ
人に正直に向き合う温かい心	園芸を大切にすることの教育	教育の理念と学園標語
向学心	いのちを大切にすること	学園標語を身をもって生きている姿
神様にも人にも喜ばれる女性の教育	いのちの尊さ	学園標語を身をもって生きている姿

学生が人生の糧となるものとして取り上げられた内容は大きく6つに分類することができる。

- ①幼い時から培われた努力家 江角ヤスの姿
- ②自分よりも他者を優先する江角ヤスの姿
- ③身をもって「マリア様、いやなことは私がよろこんで」を生き、実行する
江角ヤスの姿
- ④第一に生徒のことを考え、子どもを愛する教育者である江角ヤスの姿
- ⑤ありのままを受け入れ、苦難を乗り越える強さを持つ江角ヤスの姿
- ⑥出会いを大切に、その出会いから学び取る豊かな感性をもつ江角ヤスの
姿

これらは、明らかにトップ記事、セカンド記事のテーマと重なっている。江角ヤスの生い立ちから調査を始め、苦難に満ちた学園の草創期を経て、現在の鹿児島純心大学へと調査を進める時、学生自身が若かりし江角ヤスの歩みと重ね合わせている結果ではないかと考える。そして、重ね合わせながら、自分自身の問題として深く考え、自分自身に引き寄せて研究を進めていることが伺える。

引き寄せて研究を進めている例として、次のような文章がある。「江角先生は私にとって憧れの人であり、目標とする人です。一度でいいからお会いしたかったと心の底から思います。私は将来病棟保育士を目指しています。病棟保育士になるためにはまさに江角先生のような心持でいなければならないと思います。入院している子どもたちと正面から向き合い、一人一人を愛し大切に守りたいです。私のこれからの人生は江角先生を目指して、誰かのために一生懸命になることを目標に頑張りたいです」

このように、ほとんどの学生が江角ヤスを尊敬し、憧れの人として捉えながらも、私もできる、私も生きたいと思わせる存在であることを読み取ることができた。そのために、江角先生のように生きたいとの表現が散見できるのだろう。

このように生きたいと述べている例として、以下のような文章がある。

「江角先生のお言葉の中に、「まかぬ種は、生えぬ。植えなければゼロなのよ」という言葉がある。私はこの言葉は私の人生において、とても糧になるものであると感じた。私は、将来やりたいことがたくさんある。しかし、これらを成し遂げるためには、私が何らかの行動を起こさないといけないと思っている。私は、江角先生のお言葉の中の「種」というのは、「努力・経験」のことではないかと考えている。小学校の教師になるためには、勉強などたくさんの努力が必要になる。その努力も、何年間も続けて行わなければならないものである。また、ボランティアや実習などの様々な経験を少しずつ積み重ねることで、一つの種から、たくさんの花が咲き、実を結ぶように、自分の人生において、進める道がたくさん広がり、将来が明るいものとなっていけると考える。純心女子大学では、教員採用試験に向けての授業や様々なボランティア活動などが経験できる。積極的に参加して、将来の可能性を広げていきたい。」このように、学生が江角ヤスだからこそできたことで私には無理だという捉え方ではなく、人生の道しるべとしての存在となっていることが分かる。

IV. まとめ

平成 26 年度版の子ども・若者白書³⁾によると、若者の自己肯定感やうまくいくかわからないことにも取り組む意欲は諸外国に比べ低く、やる気がでないや憂鬱だと感じる心の状態は諸外国と比較するとその割合は高いとの調査結果がある。

このように大学で学ぶ若者が生きる現代は、江角ヤスが生きた時代とは異なり、物質的には比較的恵まれた環境に育ち、希望すれば大学進学は可能であるが故に学んでいることの価値を見いだせていない現状でもある。

そのような学生が江角ヤスと出会うことの意味は大変大きいと言える。今回学生が取り上げている江角ヤスの向学心、原爆からの復興に見る江角ヤスの人間性と生き方は「マリア様、いやなことは私がよるこんで」「神様と人さまに喜ばれる女性」のことばを抵抗なく学生が受け入れる要因になっており、さらに生きる指針、具体的行動の目標となっている。同様に江角ヤスが残した数々

の言葉が学生の心の琴線に触れるのであろう。

結果と考察から純心講座の目的である「建学の精神を学び、人として学生としていかに生きるかをともに考えることである。また、建学の精神に基づいて隣人や社会に貢献する人間の育成を目指すものである。」ことを具現化するために、学生は江角ヤスの生き方から多大な影響を受け、生きる力と促しを得ていることを江角ヤスに関する新聞作成という一連の学びから確認できた。

建学の精神を構築する具体的方法として「1. 建学の精神を理解するとともに日々の生活において実践し、その心を培うことができる。2. 創立者シスター江角ヤスの生き方を深める。」としているが、これはまさしく江角ヤスの生き方の学びを通して学生の心に根付き、深められている。また、学びが他者を重んじ、違いを認め合い様々な生き方を尊重できる心を育てていくことにより「3. グローバルなものの見方を通して視野を広げ、社会の動きに関心を持つことができる。」のである。この学びが結実し行動へと表出する時、真価が問われることになるのだろうと思う。

引用文献

- 1) 遊佐幸枝 「学校図書館発 育てます！調べます・考える力」少年写真新聞社 2071 年 7 月
- 2) 江角ヤス講話集 生命の道しるべ
- 3) 内閣府 HP 平成 26 年度子ども・若者白書（概要版）

Learn about the way of life of founder Yas Ezumi

YAMAGUCHI akemi

Abstract

In the present day, where young people studying at university live, unlike the days in which EzumiYas lived, they grew up in a relatively blessed environment, and if they wished, they could go to university, so they could not find the value of learning.

The purpose of this study is to explore the meaning of such students meeting Yas Ezumi, and to clarify the significance of the study of the pure heart course. The result of the investigation and the research of Ezumi yas was put together in the form of the newspaper as a method and it took shape. While taking Yas Ezumi as a more familiar being, he has great admiration and respect. Moreover, it was understood that the origin of the strength and the kindness of Ezumi yas which did not exist in us was confirmed that "Maria, unpleasant thing is glad". As a result, it can be said that it becomes a target of the guidance and concrete action that the student lives.